

福岡・脇道遺跡

わきどう

- 1 所在地 福岡県太宰府市大字大佐野字脇道
- 2 調査期間 第一・二次調査 一九九二年(平4)四月～一月
- 3 発掘機関 太宰府市教育委員会
- 4 調査担当者 塩地潤一
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～奈良時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

脇道遺跡は、脊振山地から東方に張り出した天拝山系の山麓から北に延びる丘陵裾部の標高約四〇m前後に立地する。



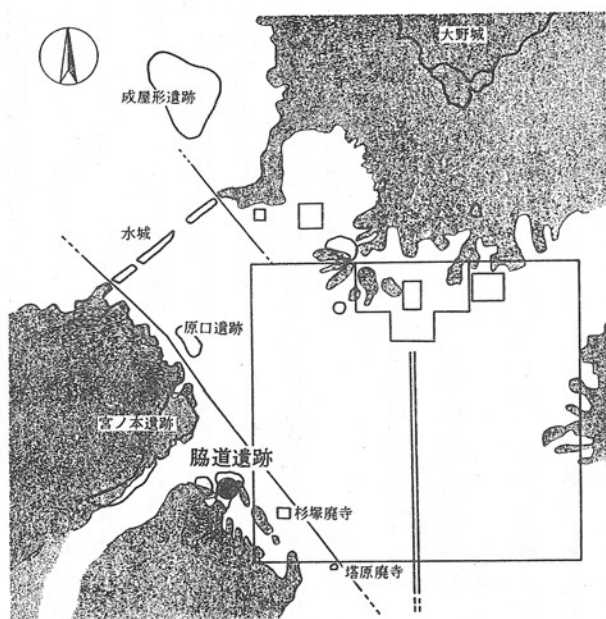
(太宰府・甘木・福岡・脊振山)

当遺跡は鏡山猛説の推定太宰府条坊西端からさらに西へ外れており、水城西門から南東方向に走る官道からも三〇〇mほど西に位置する。このように太宰府の中心部から離れた場所ではあるが、遺跡の南には牛頸窯跡群があり、付近には塔

原廃寺や太宰府官人墓として知られる宮ノ本遺跡など、太宰府条坊外の様子を知る上で重要な遺跡が点在している。

脇道遺跡の調査は、一九八七年度から実施している佐野土地区画整理事業に伴うものであり、太宰府市教育委員会が第一次・二次併せて、二七〇〇㎡を調査した。

調査の結果、奈良時代の遺構として、掘立柱建物二棟・竪穴住居一棟・廃棄土坑四基・溝一条・河川跡(古墳時代～奈良時代)が確認



太宰府条坊と周辺の遺跡

され、この河川跡の奈良時代前半の堆積層から大量の流木・木片と共に木簡が一点出土した。その他、弥生時代の住居、甕棺墓、河川跡に付随する古墳時代の柙状遺構などが検出されている。

奈良時代の遺物は、廃棄土坑及び木簡が出土した河川跡から須恵器・土師器が比較的まとまって出土しているが、全体として多くはない。その内容を見ると、蓋・杯・皿等の供膳具が多くを占める。このほか遺構に伴っていないが、転用硯一点、輪状つまみをもつ須恵器の蓋片等も出土している。

周辺から奈良時代の遺構や木簡が発見される可能性は十分あり、今後の調査が期待される。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「廣足謹申無本×

・□□人□□

(100)×27×7 0.9

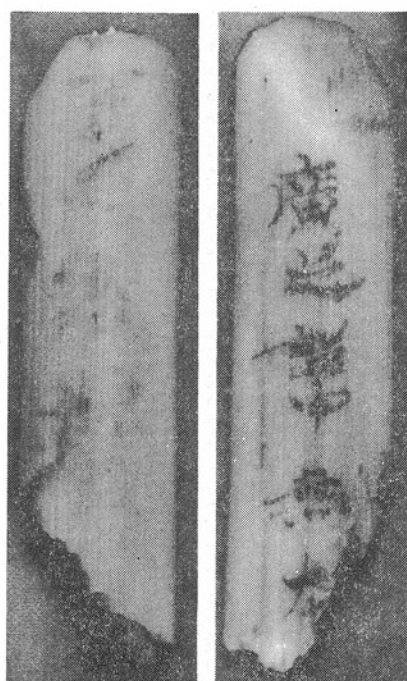
杉の柁目材を使用した木簡である。表面の文字は肉眼でもはっきりと読み取れる。下部が折損しているため内容は不明であるが、文が「廣足」で始まっていることや解式を略したような文書様式を採るなど、官司内で使用されたことを窺わせる木簡である。ただし、表と裏は異筆のようであり習書の可能性もある。裏面では赤外線テレビカメラを使用して四文字を確認している。

大宰府の中心街から離れ、さらに官道よりも西に外れた当地から、

文書様の文面をもつ木簡が出土したことは、当時の大宰府の範囲や水城から大宰府政庁までの官道周辺の状況等を考える上で貴重な資料になるものと思われる。

木簡の釈読に際しては、九州歴史資料館の倉住靖彦氏、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

(井上信正)



裏

表